



明るい漁村



CONTENTS

漁業協同組合JFしまね第9回通常総会	2	島根県小型底曳船協議会通常総会	8
JFしまね岸会長あいさつ	3	島根県下一斉海浜清掃活動	9
平成25年度決算状況	4	漁業就業支援フェア2014	9
平成26年度事業計画	5～6	浜の声～竹下睦夫さん(JFしまね五十猛出張所)	10～11
プライドフィッシュプロジェクト	7	事業部だより	11
竹島問題の早期解決を求める東京集会	7	大田水産物地方卸売市場	12
水産庁漁政部長来県	8	真心に感謝	12



第9回

JFしまね 漁業協同組合

通常総代会



ご来賓の皆様



中島謙二 県議会水産振興議員
連盟幹事長



小林淳一 島根県副知事



山本千代則 議長(恵曇地区)

総代会では冒頭に岸 宏JFしまね会長が挨拶し、引き続き来賓の小林淳一島根県副知事、中島謙二島根県議会水産振興議員連盟幹事長から祝辞を戴きました。

去る6月14日(土)午前10時より松江東急イン(松江市朝日町)で出席総代145名(内本人出席112名、委任状による出席3名、書面による出席28名)により第9回通常総代会が開催されました。

- 第1号議案 平成25年度事業報告及び剰余金処分案に関する件
- 第2号議案 平成26年度事業計画に関する件
- 第3号議案 平成26年度における借入金金の最高限度に関する件
- 第4号議案 平成26年度における理事及び監事の報酬に関する件
- 第5号議案 平成26年度賦課金の徴収に関する件
- 第6号議案 出資金配当を増資に充当する件
- 第7号議案 役員退任慰労金支出に関する件
- 第8号議案 役員補欠選任に関する件

提出された全8議案とも原案通り承認され、特別決議として①竹島領土権確立等に関する件②水産日本の復活の実現に向けた燃油高騰対策の継続・強化を求める件③漁業用燃油にかかる軽油取引税の免税措置の恒久化に関する件が提案され、満場一致で承認されました。

代表理事会長 岸 宏



本日、漁業協同組合JFしまね第9回通常総代会をご案内致しましたところ、各地区から総代の皆様のご出席を頂くと共に、公務ご多繁の央、小林島根県副知事様、中島島根県議会水産振興議員連盟幹事長様をはじめ、多数のご来賓のご出席を賜り、盛大に開催できます事を先ずもって厚くお礼申し上げます。

さて、平成二十五五年の本県海面漁業生産高は、漁業種毎の消長はあるにしても、イワシ資源の回復基調による旋網漁業の堅調な推移によって、生産高は一四万トン・一九八億円と、前年を上回る結果でありました。漁業者各位の日夜を分たぬ不断

のご協力に深く敬意を表する次第であります。

一面、漁業をとりまく環境は、資源の減少や高船齢化、消費需要の低迷や低価格志向による魚価安、更には円安政策による燃油価格の高騰高止まり、TPP問題等極めて厳しい一年でありました。

これらの当面する諸課題に対応するため、全漁連を中心に精力的に要請活動を展開した結果、燃油対策につきましても、昨年七月に第一次対策として漁業経営セーフティネット構築事業の特別対策による漁業者負担の大巾な軽減と拡充強化、十二月には第二次対策として全国の漁業者に対して燃油使用料に応じて、沿岸漁業者10円/L、大規模漁業者7円/Lの助成措置が実現した事は大きな成果でありました。

また、かねてより要望して参りました本県漁業と特に関連深い日韓財団の再基金化が実現し、五十億円の基金が造成され、海底清掃事業の大巾拡充、監視活動事業の復活、漁業共済掛金助成制度の継続が実現しま

した。島根県知事並びに島根県議会の先生方に深く感謝申し上げる次第であります。

目下、全国の漁協系統機関においては、これらの諸施策を活用し乍ら「水産日本の復活」を目指す「浜の活力再生プラン」を各漁協・集落毎に策定作業中であります。本県においても、県・市町村・JFしまね一体となつて「島根県地域水産業再生委員会」を設置、本年八月末を目前にプランを策定する予定でありますので、皆様方のご提言・ご協力をお願いするところであります。

このような中で、昨年九月には、建設中でありました大田統合卸売市場が完成、運用を開始すると共に、本年四月には西郷支所新運搬船『姫島』を隠岐の島町が建造、本組合が指定管理者となつて運航開始し流通経費の節減ができたところであります。これら一連の施策の実現に格別なるご支援を賜りました、島根県・島根県議会・隠岐の島町の皆様方に厚くお礼申し上げます。

平成二十五年度決算の結果は、後程詳細ご報告申し上げますが、所定の諸引当金計上後、当期剰余金は三億六千万円余りとなり、法定積立金・特別積立金を積んだ後の剰余金は、出資配当金・事業分量配当金をもって組合員に還元すると共に、一部を教育情報資金として繰越すこととしたところであります。

この一年間の組合員各位のご協力に心から感謝申しあげますと共に、関係各位のご支援に深く謝意を表する次第であります。

次に、平成二十六年度の運営に当たりましては、合併以来の成果と反省を真摯にふまえ、「組織の融合一体化」「魚食普及・魚価向上と流通経費縮減」「経営財務基盤の確立強化」を三本の柱として「ゆるぎない信念をもつてたゆまざる努力」を傾注し乍ら、JFしまねの将来展望を確かなものにする事が肝要と考えます。

このような基本認識のもと、本年度の重要課題としては、大田統合卸売市場の円滑なる運営と大田市管内の支所統合、更には各支所施設の計画的修繕と遊休資産整理、又、イオンなどの直接取引については、イオン傘下のダイエー店舗にも一層の拡大供給を行い乍ら流通改善に努めて参ります。

尚、本日の総代会には、平成二十五年度決算・平成二十六年度事業計画他諸案件を上程しておりますので充分にご審議のうえご承認賜りますようお願い申し上げます。又、当面する政策課題であります竹島問題・燃油高騰対策の継続強化・軽油取引税の免税措置の恒久化の三点について、夫々特別決議を行い、その実現に邁進したく思いますのでご賛同賜りますようお願い申し上げます。ご挨拶と致します。

貸借対照表

■平成26年3月31日現在

(単位：円)

資 産		負債及び純資産	
科 目	金 額	科 目	金 額
(資産の部)		(負債の部)	
1 信用事業資産	37,840,365,943	1 信用事業負債	39,568,019,641
2 共済事業資産	3,259,003	2 共済事業負債	54,069,155
3 流動資産	2,602,723,473	3 流動負債	2,120,898,088
(1) 経済事業未収金	1,984,176,245	(1) 経済事業未払金	1,755,655,817
(2) 経済事業雑資産	79,352,152	(2) 経済事業雑負債	16,820,876
(3) 棚卸資産	731,598,503	(3) 未払法人税等	76,259,926
(4) その他の流動資産	146,736,140	(4) その他の流動負債	272,161,469
(5) 貸倒引当金	△ 339,139,567	4 固定負債	989,681,509
4 固定資産	8,388,114,110	(1) 長期借入金	272,259,555
(1) 有形固定資産	4,753,110,503	(2) 受入保証金	673,995,200
減価償却資産	13,374,047,607	(3) 出資預り金	43,426,754
減価償却累計額	△ 10,778,724,709	5 諸引当金	2,074,953,245
土地	2,157,558,705	(1) 賞与引当金	68,135,545
建設仮勘定	228,900	(2) 退職給付引当金	1,971,121,000
(2) 無形固定資産	8,122,449	(3) 役員退任慰労引当金	30,696,700
(3) 外部出資	3,382,723,712	(4) 遭難救助引当金	5,000,000
系統出資	2,843,992,477	6 繰越税金負債	493,976
系統外出資	511,998,231	7 再評価に係る繰越税金負債	19,341,721
子会社等出資	26,733,004	負債の部合計	44,827,457,335
(4) 長期特定資産	2,065,500	(純資産の部)	
(5) その他の固定資産	862,048,704	1 出資金	3,229,190,000
(6) 貸倒引当金	△ 619,956,758	2 資本準備金	13,536,562
		3 利益剰余金	825,561,756
		(1) 利益準備金	292,943,449
		(2) その他利益剰余金	532,618,307
		特別積立金	159,499,689
		当期末処分剰余金	373,118,618
		(うち当期剰余金)	(369,734,870)
		4 処分未済持分	△ 113,160,000
		組合員資本合計	3,955,128,318
		1 土地再評価差額金	50,584,964
		2 その他証券評価差額金	1,291,912
		評価・換算差額等合計	51,876,876
		純資産の部合計	4,007,005,194
資産の部合計	48,834,462,529	負債及び純資産の部合計	48,834,462,529

平成25年度決算の概況は次のとおりです。
本組合事業にご協力賜りました組合員各位、関係者の皆様に厚くお礼申し上げます。

平成25年度

決算状況

損益計算書

■平成25年4月1日から平成26年3月31日まで (単位：円)

科 目	金 額
1 事業総利益	2,454,361,189
信用事業総利益	389,444,543
共済事業総利益	68,710,002
購買事業総利益	510,721,704
販売事業総利益	1,447,101,729
製氷冷凍事業総利益	△ 83,383,999
加工事業総利益	△ 324,734
利用事業総利益	22,027,011
漁業自営事業総利益	3,915,264
漁場利用事業総利益	△ 240,812
指導事業取支差額	109,612,469
無線事業取支差額	△ 13,221,988
2 事業管理費	2,232,674,288
(1) 人件費	1,558,733,087
(2) 旅費交通費	17,885,793
(3) 業務費	72,802,666
(4) 諸税負担金	67,865,445
(5) 施設費	317,266,112
(6) 減価償却費	166,592,402
(7) 雑費	31,528,783
事業利益	221,686,901
3 事業外収益	203,050,071
4 事業外費用	7,840,710
経常利益	416,896,262
5 特別利益	1,226,000,113
6 特別損失	1,187,161,505
税引前当期利益	455,734,870
法人税・住民税及び事業税	86,000,000
当期剰余金	369,734,870
前期繰越剰余金	3,383,748
当期末処分剰余金	373,118,618

事業計画

平成26年度の組合運営に当たっては、基本方針に基づき、「組織の融合一体化対策」、「魚食普及・魚価向上・流通経費縮減対策」、「経営財務基盤の確立強化」を重点推進事項として積極的に事業を推進していくものとする。

部門別重点推進事項

1. 販売事業

- ① JF市場への組合員全出荷体制の確立に努める。
- ② 販売事業統括部を核とする各支所販売部門間の連携を強化する。
- ③ 組合員への市況等の情報周知と出荷指導に努める。
- ④ 魚食普及・魚価向上・流通経費縮減対策へ積極的に取り組む。

2. 購買事業

- ① 燃油高騰対策に積極的に取り組む。

- ② 漁業経営セーフティネット構築事業の積極活用を図る。
- ③ 石油購買事業における物確保と安定供給に努める。
- ④ 魚箱安定供給体制の確立を図る。
- ⑤ 在庫管理の徹底と取扱品目の見直しを行う。

3. 信用事業

- ① 貯蓄推進委員会等との連携による貯金量405億円の達成を目指す。
- ② 信用事業リスク体制整備と自己資本比率の向上を図る。
- ③ 漁業信用保証業務との連携による漁業経営改善の支援を行う。
- ④ 信用事業店舗の再編整備を行う。

4. 共済事業

- ① 共済事業推進検討委員会・共水連等との連携によりチョコー55億円、くらし15億円の達成を目指す。
- ② 『チョコー』は、万一の場合などを保障しながら貯蓄機能もあるJF共済を代表する長期の生命共済で、入院や通院などお客

様のニーズにあった保障が選択できる共済であり、万一の場合を一生涯にわたり保障する終身共済を主体に契約者を拡大し、保有残高の拡大を図る。

- ③ 『くらし』は、貯蓄をしながら建物や家財などを火災や自然災害から守る総合的な補償で、満期時の満期共済金により増改築時にも役立つ共済であり、万一の自然災害の損害に対しても安心できる補償提供を目的に、加入者の拡大を目指す。

5. その他の事業

- ① 冷凍冷蔵事業については、販売部門との連携を強化し、魚価の安定と向上に積極的に取り組むとともに、境港支所と連携し恵曇冷凍冷蔵庫の稼働率の向上を図る。
- ② 製氷事業については、販売部門との連携強化及び、恵曇冷蔵庫・製氷工場や境港製氷工場、新大田製氷工場の稼働率の向上を図りながら、水供給体制を構築する。
- ③ 既存の加工施設の再点検・リニューアルにより新規活用を図るとともに、不採算事業の整理と新規事業の開拓に取り組む。

- ④ 「JFしまね漁業無線局」を有効に活用し、組合員への気象情報及び海上防炎情報、漁海況速報の提供による海難事故の未然防止と操業効率の向上に努める。
- ⑤ 指導事業については、水産基本政策、輸入水産物・TPP問題への対応ほか、200海里水域対策として、日韓協定・暫定水域民間協議対策、相互入漁条件交渉対策、違反操業取締対策、暫定水域、EEZにおける韓国漁船対策、漁場機能維持管理事業（海底清掃事業・監視活動事業）の円滑実施、竹島領土権確立運動の積極的展開と安全操業対策とともに、漁業再構築対策、担い手・後継者育成対策、繁殖保護・漁場管理・資源管理・収入安定対策・営漁指導・生産、販売流通対策、遭難救助・操業安全対策、共済保険推進などの漁業振興対策を行う。



区 分	年 額
漁業種別賦課額	
沖合底曳網（2そう曳1ヶ統）	216,000円
沖合底曳網（1そう曳）	108,000円
旋網（100t以上船1隻あたり）	100,000円
旋網（100t未満船1隻あたり）	搭載する無線機種別賦課金額とする。
無線機種別賦課額	
27メガ DSB 1W	16,800円
27メガ SSB 25W	30,000円
40メガ DSB 5W	30,000円
40メガ DSB 5W（准加入）	36,000円
※無線機併設船については、高額な方の賦課額とする。	

総代会で承認された賦課金の徴収につきましては、次のとおりです。

□ 賦課金の金額

正組合員 年間3,000円
准組合員 年間2,000円

JFしまね漁業無線局賦課金徴収については、次のとおりです。

□ 賦課金の金額



平成26年度収支計画

■平成26年4月1日から平成27年3月31日 (単位：千円)

科 目	金 額
1. 事業総利益	2,367,259
〔信用事業総利益〕	270,213
〔共済事業総利益〕	72,891
〔購買事業総利益〕	622,334
〔販売事業総利益〕	1,063,546
〔買取販売事業総利益〕	115,401
〔冷凍冷蔵事業総利益〕	14,414
〔製氷事業総利益〕	152,227
〔加工事業総利益〕	1,056
〔利用事業総利益〕	782
〔その他事業総利益〕	6,276
〔無線事業総利益〕	0
〔指導事業総利益〕	48,119
事業収益計	16,430,178
事業直接費計	14,062,919
2. 事業管理費	2,152,553
(1) 人件費	1,501,463
(2) 旅費交通費	21,395
(3) 業務費	74,998
(4) 租税公課	45,900
(5) 負担金	21,126
(6) 施設費	317,443
(7) 減価償却費	145,385
(8) 雑費	24,843
事業利益	214,706
3. 事業外収益	122,093
4. 事業外費用	5,756
経常利益	331,043
5. 特別利益	0
6. 特別損失	5
税引前当期剰余金	331,038
法人税・住民税	75,000
当期剰余金	256,038

平成26年度主要事業取扱計画

■平成26年4月1日から平成27年3月31日 (単位：千円)

部門	金額	備考	
経済事業	石油類	6,894,443	
	資材類	985,546	
	合計	7,879,989	
	販売事業	受託販売取扱高	22,133,139
		買取販売	3,215,856
		合計	25,348,995
	冷凍冷蔵事業	冷凍品販売高	1,633,561
		保管料	161,724
	合計	1,795,285	
	製氷事業	氷供給高	647,049
加工事業	加工品販売高	90,700	
	受入加工料	1,000	
合計	91,700		
利用事業	受入利用料	131,750	
漁協自営事業	販売高	85,740	
経済事業総取扱高		35,980,508	
信用事業	貯金	41,005,873	
	預け金	30,310,416	
	貸出金	6,525,017	
	有価証券	400,000	
共済事業	普通厚生共済(チョコー)	43,640,000	
	長期共済保有高	生活総合共済(くらし)	14,200,000
	合計	57,840,000	
	共済連元受契約に係るもの	ねんきん	44,000
	短期共済保有高	乗組員厚生共済(ワコー)	7,600,000
火災共済(カサイ)	25,000,000		
合計	32,600,000		

「プライドフィッシュ」プロジェクト

「本県(夏)のプライドフィッシュは「アカアマダイ」

魚離れが年々進む中、本物の水産物の価値や本当の魚のおいしさをたくさんの方々に知ってもらい食べてもらおうと、JF全漁連が中心となり、各都道府県のJFグループ・漁業者が近海で獲れる数種類の魚の中から、自信を持って勧める魚を「プライドフィッシュ」に位置づけ1種類選定し、おいしい魚の食べ方や季節ごとの旬、食べられる店や買える鮮魚店等の情報を専用ホームページで全国的に発信し、食普及や水産物の消費拡大に繋げる取組みを展開しています。

本県においては、夏のプライドフィッシュを「アカアマダイ」に選定し情報発信を行うとともに、秋・冬・春のプライドフィッシュについては今後協議・選定していくこととしております。

この取組みは今後3年間(年/4魚種選定)続けられ、

最大で各都道府県域で12種類の「プライドフィッシュ」が誕生する予定です。



島根県のプライドフィッシュ(夏): アカアマダイ

全国のプライドフィッシュ (H26.7.31現在)

区分	各都道府県のプライドフィッシュ(夏)
北海道	厚岸のかき
青森県	深浦マグロ
千葉県	銚子の入梅いわし
石川県	生スルメイカ
静岡県	静岡のしらす
三重県	三重の海女獲りあわび
大阪府	大阪のマグロ
兵庫県	淡路島の生しらす
島根県	アカアマダイ(コビル)
山口県	西京はも
高知県	土佐沖どれキンメダイ
徳島県	とくしまのはも
愛媛県	来島海峡のアコウ(キジハタ)
大分県	銀たち「くにさき銀たち」「白杵たちうお」

竹島問題の早期解決を求める東京集会開催

去る6月5日、東京・永田町の憲政記念館において、「竹島問題の早期解決を求める東京集会」が開催され、本県JFしまねからも岸会長をはじめ、各漁業種別代表者・関係者らが多数参加されました。

官民組織の「竹島・北方領土返還要求運動島根県民会議」及び超党派の国会議員でつくる「日本の領土を守るために行動する議員連盟」共催で開催される東京集会は、2012年4月以来2回目。

集会では各党国会議員代表者からの挨拶の後、漁業者を代表してJFしまね岸会長が挨拶。「竹島周辺は島根県及び隣県の好漁場で



挨拶をするJFしまね岸会長

あつたが、暫定水域となつているその海域は韓国漁船が押し寄せ、日本の漁業者が追い出され



(前列右から)参議院平沼議員、参議院山川議員、島根県議会五百川議長
(後列右から)JFしまね岸会長、島根県溝口知事、隠岐の島町松田町長

資源が枯渇する恐れがある。漁業者は漁業に限らず国境監視や領土・領海を守る気概をもつて働いている中、この漁業者がいなくなつたら日本はどうなるのか。竹島が日本固有の領土であることを確立し、周辺漁場で安全に操業できるような竹島と漁業者を守つてほしい」と訴えられました。

このあと、竹島問題の早期解決を求める特別決議が採択され集会は終了しました。

【特別決議】

- ①「竹島の日(2月22日)」の閣議決定とオールジャパンの体制で竹島問題の早期解決
- ② 国際司法裁判所への単独提訴と国際社会へのアピール
- ③ 学校教育での竹島問題の広域的な取扱い
- ④ 山陰沖での排他的経済水域の境界線画定と日韓暫定水域の撤廃
- ⑤ 実効性ある漁業管理の実施

柄澤彰水産庁漁政部長来県

定置網乗船視察

去る6月21日(土)、柄澤彰水産庁漁政部長、木島利通水産庁漁港漁場整備部防災漁村課長、長屋信博JF全漁連専務が来県され、馬島定置(有)小川漁業・松江市島根町加賀)を視察された後、同日開催された島根県小型底曳船協議会通常総会に出席されました。

曇り空の下、午前4時に出港した馬島丸には、水産庁 柄澤漁政部長、木島防災漁村課長、全漁連 長屋専務、JFしまね岸会長、築谷常務、野津理事が乗船。大漁を期待しての出港でありましたが猛暑続きの影響もあり、漁のほうは思わしくなかったものの、船上で捌かれた獲れたてのシロイカを口にされた柄澤

部長は満面の笑みで、「うまいっ!」と絶賛されました。帰港後、殺菌冷海水処理による一連の鮮度管理及び出荷作業を見学し加



挨拶をされる柄澤彰水産庁漁政部長
(柄澤部長は7/22付人事により農林水産省生産局農産部長へ就任)

賀港を後にされ、県小型底曳船協議会通常総会が開催される大田市へ向かわれました。

午前10時より開催された島根県小型底曳船協議会通常総会の冒頭の挨拶で柄澤部長は、日頃より尽力されている漁業者への感謝と共に、燃油高騰への緊急対策をはじめ、魚価対策・日韓漁業問題・担い手対策等直面している諸問題に加え、今年度新たに創設された「浜の活力再生プラン事業」についての説明及び各浜での積極的な取組の実施を推進されました。その後、出雲大社を参拝された後、島根の地を後にされました。

島根県小型底曳船協議会

第25回通常総会

去る6月21日(土)、大田商工会議所において、島根県小型底曳船協議会第25回通常総会が開催されました。吉田敬治会長の開会挨拶に続き、松尾島根県水産課長、和田島根県協議会議員、生越島根県協議会議員、青木大田市副市長、JFしまね岸会長、柄澤水産庁漁政部長からの

来賓挨拶を頂き議事に入りました。議長に、辻氏(五十猛丸)が選任され、提出された全6議案とも原案通り承認された後、役員改選にて承認された新役員による互選の結果、会長に吉田敬治氏が再任し、



副会長に中島幸一氏、峠勝憲氏が就任されました。引き続き県及び事務局より、①小型底曳網漁業の漁獲動向について②2014年における日韓漁業の操業条件について③海底清掃事業についてそれぞれ説明がなされた後、安全操業宣言が朗読され総会は終了しました。

新役員

- | | |
|-----|----------------|
| 会長 | 吉田敬治 (昭吉丸・和江) |
| 副会長 | 中島幸一 (昭洋丸・鳥井) |
| 理事 | 峠 勝憲 (漁神丸・仁摩) |
| 理事 | 坂根康平 (幸栄丸・久手) |
| 理事 | 月森隆広 (大洋丸・和江) |
| 理事 | 中島幸夫 (正運丸・和江) |
| 理事 | 辻 豊孝 (良運丸・五十猛) |
| 理事 | 松村孝秋 (琴代丸・仁摩) |
| 理事 | 木村 徹 (海進丸・鳥井) |
| 理事 | 月森賢一 (海新丸・和江) |
| 理事 | 田中 登 (大久丸・久手) |
| 理事 | 中島典生 (幸神丸・和江) |
| 理事 | 小池 真 (忠栄丸・平田) |
| 理事 | 月森 司 (日章丸・和江) |
| 理事 | 水上克之 (三和丸・仁摩) |
| 理事 | 堀 康雄 (新漁丸・鳥井) |

島根県下一斉海浜清掃活動

今年も「海の日」を中心（7月19日～21日）に、県下一斉海浜清掃活動が県内各地区で開催されました。

海浜清掃には各地区漁業者をはじめ、漁協女性部や青年部、地元自治会やPTA親子、JFしまね職員や水産系統団体、水産行政団体など、総勢約3500名が参加。流木や藻類、外国製のプラスチック容器や漁具・魚網、発泡スチロールやドラム缶、ブイなどの漂着ゴミをはじめ、空缶やペットボトル、弁当殻や使用済み花火など「ポイ捨てゴミ」も多数回収されたようです。

一人ひとりがゴミを持ち帰り「海を汚さない」という気持ちを持ちながら、更にこの清掃活動の輪が広がることで「きれいで豊かな島根の海」に繋がることを願っています。

参加者

3,518名

回収ごみ合計

一般ごみ 2,400袋
不燃ごみ 2,152袋
その他トラック回収及び焼却



2014年の日海浜清掃活動実施状況

実施日	JFしまね	実施場所	参加人数	ゴミの量		実施日	JFしまね	実施場所	参加人数	ゴミの量	
				一般ゴミ	不燃ごみ					一般ゴミ	不燃ごみ
7月19日	美保関支所	七瀬地区(七瀬港周辺)	55	80	40	7月19日	大社支所	大社地区(大社漁港周辺)	20	※	15
7月19日		笠浦地区(塩浜、後難他)	150	150	150	7月20日		湖陵地区(湖陵漁港、海水浴場周辺)	50	70	50
7月19日		美保関地区(美保関、海崎、長浜、各津各漁港周辺)	100	80	30	7月12日		多伎地区(小田東港、小田西港、田嶋港周辺)	130	50	70
7月19日		福浦地区(福浦漁港、環水造創海岸周辺)	20	25	2	7月20日	大田支所	久手地区(久手海水浴場周辺)	400	300	100
7月21日	島根支所	大戸地区(大戸海岸周辺)	100	150	150	7月6日		和江地区(静間川河口東側海岸、西側海岸、魚津海岸)	370	※	※
7月19日	志賀支所	古浦地区(古浦海水浴場周辺)	50	60	5	7月19日		五十猛地区(五十猛海岸全域)	200	100	100
7月21日	甲田支所	十六島地区(十六島漁港周辺)	70	※	※	7月19日	仁摩支所	仁摩地区(仁万漁港、宅野漁港周辺)	80	10	10
7月20日		小津地区(小津漁港周辺他)	30	40	10	7月19日	浜田支所	浜田地区(浜田港周辺)	100	※	※
7月21日		河下地区(河下漁港周辺他)	50	50	150	7月21日		江津地区(黒松漁港周辺)	11	65	25
7月20日		塩津地区(塩津海岸周辺他)	60	※	※	7月12日	益田地区	益田地区(益田、小田、静間、長浜、大田、津田、津島、大田、土田等周辺)	250	70	※
7月20日		美保地区(美保海岸周辺)	40	※	※	7月20日	西郷支所	西郷地区(西郷港東側海岸周辺)	60	80	80
7月20日		三津地区(三津漁港周辺他)	30	40	30	6月29日		蛸木地区海岸周辺	50	50	50
7月20日		小伊津地区(小伊津漁港、海岸周辺他)	170	200	400	7月20日		那久地区海岸周辺	40	50	50
7月20日		坂浦地区(坂浦漁港周辺他)	180	200	150	7月12日		都万地区海岸周辺	130	70	50
7月20日		地合地区(地合漁港周辺)	150	200	100	7月19日		油井地区海岸周辺	17	25	50
7月20日		釜浦地区(釜浦東浜、西浜他)	30	100	200	7月19日		五箇地区海岸周辺	24	25	50
							清郷支所	浦郷地区(珍崎地区～美田地区海岸及び国賀浜海岸周辺)	300	※	※

※印はトラック回収又は焼却処理

漁業就業支援フェア2014 福岡、大阪、東京にて開催

漁業に馴染みのない就業希望者と入を求める漁業者・漁協が直接話せる場となる就業相談会、漁業就業支援フェア漁師の仕事まるごと！イベント（主催 一般社団法人全国漁業就業確保育成センター）がこのほど、福岡（来場者105名）、大阪（来場者205名）、東京（来場者336名）の3都市で開催され、本県からも沖合底曳網漁業、中型まき網漁、小型底曳網漁業からそれぞれ関係者が出席されました。

会場には全国各地から50を超える漁業団体がブースを構え来場者と面接。20代～30代の若者が多く見受けられる中、お互いの条件が合いマッチングした場合、現地での体験を経て、研修候補生として採用（雇用）される運びとなります。水産庁後援のもと2002年からスタートしたこの就業相談会は、全国において後継者確保の取組みの一つとして、重要なイベントとなっています。



漁の声

第11回

竹下 睦夫さん46歳（JFしまね大田支所五十猛出張所所属）

島根県のほぼ中央に位置する大田市。約23^{km}に及び大田市海岸の西部にある五十猛地区では、まき網漁業、小型底曳網漁業をはじめ、一本釣り漁業、刺網漁業、採介藻漁業などが営まれる昔からの漁師町。また、一年の豊漁や無病息災を祈願する正月行事として古くから伝承されている「五十猛（いそたけ）のグロ」は有名で、国の重要無形民俗文化財に指定されている。今回は、漁師になって28年目を迎える竹下睦夫さん（46歳）に浜の声を聞いた。

今思うと英才教育をされていた...

現在、素潜り漁師として毎日頑張っている竹下さんは今年で46歳。小さい頃から海で遊び育った竹下さんは、「自分を漁師にさせる気満々だった」という父親から、釣りや貝の採り方はもちろん、漁場や魚の通り道、潮の流れや季節ごとに変化する海の様子など、海や漁業に纏わる色々なことを教えられたという。「今思うと英才教育をされていた気がするに...」と、笑いながら話してくれた。

高校を卒業後、迷うことなく漁師を職業として選んだ竹下さんは、地元まき網船の乗組員として漁師の道をスタートさせた。

毎日ヘトヘトになりながらも、誰よりも早く一人前の漁師として認められるよう人一倍の努力と経験を積み数年が経った頃、船団の中でも重要な役割を担う「灯船（集魚船）」の船長を任されることになった竹下さん。「（魚を）見つけられん日が続いて肩身の狭い思いをしたことも沢山あったけど、

計算通りに（魚の）山を当てた時は笑いが止まらんほど嬉しかったよ。前の日から（大漁を）想像しただけで楽しくなって眠れんこともあったしね」と、毎日重圧を感じながらも充実した日々を過ごしたという。

素潜り漁師として新たな道へ...

船長として舵を握り三十歳半ばを迎えた頃、ふとしたことがきっかけで「一人でやってみよう」と、今までに無い強い気持が芽生えたという竹下さん。思い立ったら即行動という性格は今でも変わらないうが、独立をするにあたっていろいろ不安もありながら何より家族の応援もあり、長年お世話になった会社を辞め新たな漁師の道が始まった。

選んだ漁業は素潜り漁。父親に鍛えられ昔から得意だったことや、何よりも体力に自信があったことに加え、「なんと」いつても経費がかからんに（笑）...」というのが選んだ理由。

年間を通してサザエやアワビ、

ナマコやワカメ、モズクなどを獲り、禁漁期間には一本釣りで生計を立てる。毎日朝7時に潜水を開始し、昼の12時までみっちり潜る。水深10m〜12mが主な漁場というが、「（深くて）人が潜れんところ」が穴場だ

に...かなりしんどいけど、ね」と、深さ20mまで潜り操業することもあるという。



頑張っている姿を見ることが何よりのエネルギー！

竹下さん一家は6人家族。両親と奥さん、2人の子供達と一緒に暮らしている。高校生の長男は小学校から始めた野球に今でも打ち込み、長女は中学校でバレーボールに汗を流す。

「一番の趣味かもね（笑）」と言う竹下さんの楽しみは子供達の試合観戦。「（子供達が）頑張っている姿を見ることが何よりもエネルギーになつとるよ...」と子供達のこれまでの活躍を照れくさそうに話してくれた。

とにかく「感謝」しかないよ。

1年を通して最も忙しい時期は2月〜4月の板ワカメという竹下さんは普段の操業では選別から出荷までほぼ一人でこなしているが、この時期ばかりは人手が必要と、昔からお世話になっている手伝人の近所のおばさん数人と両親や奥さん、時には2人の子供達にも手伝ってもらっているという。

午前中に潜り刈り取ったワカメを、午後から洗浄し1枚ずつ並べ天日干しにしていく。8割ほど乾いたら今度は電気乾燥機に移し、出来上がったものからサイズ別に分け袋詰をしていく。以前は全てを天日干しに頼っていたため、天



候に左右されやすく思い通りに出荷できなかつたが、電気乾燥機を導入したことで一変。計画的な製造が可能となり出荷量も大幅に増えるのと同時に、仲買人からの注文も安定し、地元消費を中心に、現在では多くのリピーターもいるという。

ピーク時には連日夜遅くまで作業が続き忙しさが増す反面、当然手伝人の負担も増えていく。

「一人では絶対出来んし、ほんと有難いと思ってるよ」と、高齢でありながら寒い中毎日一生懸命作業してくれる手伝人のおばさん達や両親をはじめ、何より独立をきっかけに今まで以上に負担を負わせてしまった奥さんに対し、「とにかく感謝しかないね」とと普段口では言えない気持ちを話してくれた。

自分たちで守っていかないといけない。

「この10年で間違えなく資源は減ってきている」と、毎日潜っていて感じる海の変化について教えてくれた。

温暖化の影響なのか今までみたことのない南方系の魚や生えたことのない海藻をよく目にするという竹下さん。また、「磯やけ」が近隣で進んでいるという情報に併せ、最近特に岩場の海藻を食べべすというガンガゼやクロウニが大量に繁殖しているとのこと。

「とにかく獲るだけではダメ。自分達で努力して(磯を)守っていかないと・・・」と、資源を持続的に利用していく方法と併せ、繁殖しているガンガゼやクロウニの駆除と、それらの有効活用について、行政機関へ出向き何度も協議を重ねているという。

「(漁業は)今は暗い話題しかなくかもしれんけど、この先必ず明るい時代が来ると思ってる毎日頑張るよ。」と、とにかく前向きな竹下さん。仲間からは「むつ」の愛称で呼ばれているほど親しみやすく話し上手で、何より仲間や家族思いな人柄を感じることができた。

終始明るく笑顔で取財に応じて頂いた竹下さんにこの場を借りてお礼申し上げます。



信用部からのお知らせ

島根県警察本部によりますと、平成二十六年五月末現在の特殊詐欺の被害状況は十六件で、被害総額1億三千四百九十九円となっており、昨年より件数、金額ともに増加しております。つい最近も、浜田市内の女性が息子を騙る男からの電話で、オレオレ詐欺の被害に遭われています。初めて電話をかけてから、数日間にわたり電話を掛け、数回にわたり指定口座に振り込ませるといった巧妙な手口です。

また、最近では振り込ませるだけでなく、レターパックを使用して現金を送金させる詐欺も横行しております。レターパック、ゆうパック等で現金を送るのは犯罪です。レターパック等で現金を送れと言われたらそれは詐欺です。

振り込め詐欺に遭わないためには、相手の話を鵜呑みにせず、家族や友人に相談し、冷静に対応してください。

また、在宅中でも電話を留守番電話に設定し、相手の声を確認してから電話を取るようになると詐欺を未然に防げます。

オレオレ詐欺を代表するような特殊詐欺は後を絶ちません。少しでも不審に思うところがあれば、JFマリンバンクしまねの窓口、最寄りの警察署等へご相談ください。

「風邪で声が変わった、電話番号が変わった。」

「レターパック、ゆうパックで現金送って。」

「口ト6の当選番号を事前に教えます。」

「名義を貸してください。」

「医療費、保険料の還付があります。」

ATMに行ってください。」

は **詐欺** です。ご注意ください！



JFしまね大田水産物地方卸売市場

大田市内の4箇所（久手、和江、五十猛、仁摩）の市場を統合集約し、水揚げ規模で県内2位となる「JFしまね大田水産物卸売市場」が完成・稼働し一年が経過しました。漁獲物の生産力向上及び流通の効率化や競争力アップに加え、鳥獣等の侵入対策や日差し・風雨対策、ろ過殺菌（冷）海水の導入や場内出入りの際の長靴洗浄など、消費者ニーズに対応した衛生管理型の市場であり、安全・安心な魚を提供でき、付加価値向上に繋がることと確信しております。



■施設面積：1,9433.92㎡
 ■構造規模：鉄骨造一部鉄筋コンクリート造2階建
 延べ面積61331.13㎡ 建築面積5751.67㎡



衛生管理研修室



No2.荷捌き場 (376.20㎡)



No1.荷捌き場 (2745.17㎡)

JFしまね大田製氷工場(市場隣接地)



貯氷庫



製氷室

□構造規模：鉄骨平屋建 延面積840㎡
 □製氷貯水設備：製氷能力/日産20t 貯氷能力/貯氷400t
 □砕氷搬送設備：砕氷能力50t/h 砕氷エア搬送能力15t/h

◆皆様からのご意見やご感想、ひとこと随想、また漁村に関する話題などお待ちしております。
 〒690-0007 島根県松江市御手船場町575番地
 漁業協同組合 JFしまね「明るい漁村」係
 ※E-mail:shidou@jf-shimane.or.jpまたは、
 FAX:0852-27-6130でもお寄せ下さい。

◆本誌のバックナンバー(pdf形式)をホームページで公開しています。
 <JFしまねWEBサイト>
<http://www.jf-shimane.or.jp/akarui.html>

温かい真心に感謝

佐野野 鍛魚 JFしまね浜田支所
 藤木 坂心 海の幸
 賢節 久和 伸
 一夫 義伸



【募金・香典返し】

※漁船海難遺児を励ます島根県地方協議会へご寄付頂いた方々のご芳名を掲載し、厚くお礼申し上げます。

明るい漁村
178号

編集兼発行人／漁業協同組合JFしまね
 〒690-0007 島根県松江市御手船場町575

TEL 0852-2710001(代)
 FAX 0852-276130

編集後記

夏の暑さも随分和らぎ秋らしく過ごしやすい天気になってきたように思います。6～7月末にかけ境港で水揚げされるマグロも今年は昨年以上の豊漁だったようですが、半島の定置網では夏特有の「夏枯れ」が続き、今のところ漁のほうは思わしくないようです。盆明け頃から海水温も徐々に下がりはじめたとのことですので、秋漁に期待を込め県内各港が賑わうことを願っています。(N)